

2019年度 事業報告

(2019年4月1日 ～ 2020年3月31日)

2019年度の概況

平成から令和に時代が変わり、新時代を迎えました。

サンシャイン大森は、これまで21年間事業を展開し、地域の皆様に還元できる事は何かを模索してきました。当初「支援を必要とする子ども」を対象とした提供について検討したところ、対象を子どもにすることに困難性があることから、目標設定の見直しを行い、将来子どもの支援も可能となる「訪問看護ステーション」の開設の準備を進めてまいりました。2020年4月1日開所の運びとなりました。

さて、この一年を振り返りますと、災害が多い年となり、10月12日は台風19号が猛威をふるい、地域の方3名の方が当施設に避難されました。

2020年2月中旬からは新型コロナウイルス感染症が、日本及び世界中に蔓延し、国難ともいえる状況に陥りました。日頃の備えや訓練の大切さを痛感いたしました。

介護職員の待遇に関しては、特定介護処遇改善加算が新たに設けられ、介護職員にはスマイル手当、早番手当、新たに夜勤手当の増額を行い、介護職員の離職防止と待遇改善を強化してまいりました。また、昼ごはんの提供も行い健康で働き続けることができる職場づくりにも努めてまいりました。

喀痰吸引等研修を4月23日から8月30日まで実施し18名(施設職員3名)受講いたしました。

各事業部門報告

() は前年度数値

(1) 特別養護老人ホーム

ご利用者様の健康管理、感染管理の徹底をはかり、インフルエンザ罹患ゼロを達成することができました。また、トイレの利用回数も増え、おむつの使用率の減少につながりました。

理学療法士を配置したことにより、利用者様の身体状況を把握しリハビリや介護職員へのリハビリ方法を習得してきました。リハビリスタッフを心待ちしている利用者様も多くなりました。

内訳は利用者定員 80 人に対し、平均利用率 98.9% (97.6%)、平均要介護度 3.6 (3.7)、平均年齢 85.9 歳 (86.9 歳)、入退所の状況は年間 33 人 (23 人)、うち要介護度 1, 2 の特例入所 0 人 (2 人) となっています。看取り介護 4 人 (8 人) 実施いたしました。

(2) 百花のいえ

夏の時期にご家族様とご利用者様、職員とバーベキュー大会を実施いたしました。久しぶりに孫さんとの食事や会話を楽しんだりし、笑顔満載の時をすごしました。

四季折々の植栽に囲まれた環境で、初めて柿の収穫を行い、みんなで分けて食べたことが印象として残りました。

内訳は利用者定員 20 人に対し、平均利用率 97.6% (97.8%)、平均要介護度 3.7 (3.7)、平均年齢 91.1 歳 (90.8 歳)、入退所の状況は年間 6 人 (3 人) となっています。看取り介護 1 人 (1 人) 実施いたしました。

(3) ショートステイセンター

一年を通して外出する機会を多くつくりました。特にご利用者様が大好きなラーメン屋へ出かけました。病院を退院して在宅に戻るまでのリハビリを兼ねて利用する方も増えてきておりました。

年間利用延人数は要介護者が 7,526 人 (7,014 人)、要支援者が 117 人 (379 人)、合わせて 7,643 人 (7,393 人) で利用率 104.4% (101.0%) でした。

(4) デイサービスセンター

年間目標の交通安全送迎に関して、接触事故もなく送迎ができた一年でした。暖冬にて降雪も少なかったことも要因のひとつでした。

サンシャインクラブは山形市の方針で原則、通所サービス C 型から利用することになり、新規の利用者は見込めませんでした。

年間利用延人数は、一般型の要介護者が 5,184 人 (5,655 人)、総合事業 1,278 人 (1,843 人)、合計 6,462 人 (7,508 人) で利用率は 71.7% (83.4%) でした。

サンシャインクラブの年間利用延人数は、2,415 人 (2,457 人) でした。

(5) 居宅介護支援センター

介護支援専門員 2 名で活動を行いました。山形市内の地域連携室等から新規の依頼が増えてきました。

毎月実施しています「サン茶イン」については、新型コロナウイルス感染防止のため 2 月より実施できなくなりました。

サン茶インご利用人数 45 人(97 人) ケアプラン件数合計件 649 件(738 件)でした。

(6) シルバーハウジング

山形市から委託を受け、山形市大森住宅シルバーハウジング（高齢者世話付住宅）に居住する高齢者の方に初めて敬老会のご招待をいたしました。6 名の方のご参加がありました。舞子さんとの記念写真撮影やお祝い膳を楽しんでいただきました。

1 月 27 日にはボヤ騒動なども発生し、火の取り扱いについて注意喚起をいたしました。内訳は、安否確認が 3,871 件(3,7849 件)、生活相談が 24 件(25 件)、緊急対応が 3 件(3 件)、誤報が 42 件でありましたが、理由は通報解除ボタンの押し忘れでした。

(7) 地域包括支援センター

総合相談支援では、困ったときに地域住民に読んでもらえるような圏域版の相談のしおり「はじめの一步」の作成と全戸配布を行い、活用して頂きました。また、三者懇談会に参加して地域に対する支援体制構築を行い、楯山・山寺地区では町内ごとに分かれ、マップ作りを行い情報共有しました。高瀬地区では協議体の継続支援と共に総合事業 B 型としての立ち上げ支援を行いました。権利擁護では、お便りなどの広報や随時虐待が疑われるケースなどに対応をしました。包括的・継続的ケアマネジメント支援は、民生委員定例会に参加し地域の方との情報共有や、介護支援専門員連絡会等を開催し専門職同士の連携を深めました。介護予防ケアマネジメントでは、介護予防を中心に活動してきた「元気☆もりもり教室」を「まるっとおおもり」と名前を変えて高齢者を取り巻くさまざまな問題に視野を広げて活動を行うこととしました。そして今回は消費者トラブルにスポットを当て、寸劇グループおとめ座による振り込め詐欺を題材にした寸劇を披露していただき、消費者トラブルの事例と対処方について学んでいただきました。

内訳は初回相談件数が 134 件(178 件)、相談後の連絡・調整が 4,702 件(5,669 件)、介護予防ケアプラン作成が 1,708 件(1,822 件)、総合事業支援が 168 件(244 件)でした。